

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600137		
法人名	(有)ライトマインド		
事業所名	グループホーム花縁 桜ユニット(1F)		
所在地	苫小牧市澄川町4丁目3-5		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022.kan=true&JigyosyoCd=0173600867-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・基本理念を基に、一人一人の個性を大切にし、自己決定を促したり潜在力を引き出す等行い、その人らしく暮らせるようさりげなく支援している。
 ・拘縮予防のアプローチを行い、個々の潜在能力を引き出している。
 ・防災意識向上の為、避難訓練を毎月実施している。訓練後の総評で反省点を出し合い、次回につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム花縁」は、樽前山を遠くに臨む自然豊かな住宅地に立地している。近隣にはコンビニエンスストアや商店、飲食店などもあり、利便性が高い。居間や食堂は独立した明るく開放感のある造りで、黒電話や鉄瓶、ミシンなどが置いてあり、昔を懐かしみながら好きな場所でゆっくり過ごせる環境になっている。ケア理念は、毎月実施している「事前評価表」の作成時や介護計画の見直し時に照らし合わせることで、全職員が内容を詳細に理解して実践につなげている。職員や施設長、管理者は、利用者一人ひとりを理解し、その人のあるべき姿を大切に意向に沿った細やかで温かなケアを行っている。職員のキャラバンメイトチームが小学校でキッズサポーター養成講座を開催したり、施設長が認知症介護指導者として行政から依頼を受けて他事業所の指導を行うなど日頃から市役所との協力関係を築いている。自主的に毎月避難訓練を実施して各利用者の避難誘導方法を確認したり、身体拘束廃止委員会を毎月開催して拘束について理解を深めている。また、質の高いケアに向けた研修も充実している。利用者は町内の夏祭りや運動会に出かけたり、法人が開催している茶話会への参加、花見や買い物などの外出を楽しみながらその人らしい生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桜ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・ケア理念を事務所やホール内に掲示し、いつでも目につくようにしている。ケアプラン作成時にも、ケア理念と照らし合わせ、実践へつなげている。	法人共通の基本理念の下、理念作成委員会を中心に地域密着型サービスの意義を踏まえた独自のケア理念を作成している。職員は介護計画と照らし合わせることで理念を共有し、実践につなげている。現在、ケア理念の見直しも検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事など、入居者と一緒になるべく参加させて頂いている。また、ホームの行事や避難訓練の際、ボランティアを要請している。	町内の夏祭りやゴミ拾いに利用者と一緒に参加したり、運動会の見学に出かけている。敬老会に幼稚園児と交流したり、キッズサポーター養成講座を受講した小学生が来訪している。琴の演奏ボランティアが訪れることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校でキッズサポーター養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、事業所の取り組みなどを報告、会議の出席者から意見を聞いたりしている。議事録を基にスタッフに職員会議で報告しサービス向上に活かしている。	年6回の中、3回は同法人事業所と合同で開催している。行政担当者や地域役員、家族などの参加を得て家族アンケートや家族会の報告も行っている。議事録は全家族に送付しているが、会議案内は参加を依頼している家族のみになっている。	ミニ勉強会や独自のテーマ内容に応じて全家族に会議案内を送付したり、参加できない家族の意見を事前に聞き取るなど、家族意見を更に反映できるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が窓口になり行っている。	施設長は、介護保険の更新申請やサポーター養成講座開催の手続きなど頻りに市役所を訪問し、日頃から連携を深めている。また、認知症介護指導者として行政から依頼を受けて、施設長が他事業所の指導を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会を行い話し合っている。勉強会等で学ぶ機会があり、理解を深め取り組んでいる。また、防犯のため夜間は施錠するが、日中はしていない。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、禁止行為11項目を業務日誌などに添付して日頃から意識づけしている。新人職員に禁止行為を説明すると共に、業務の中で事例に沿って詳しく説明して理解を深めている。内外の研修を計画的に実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や外部研修等の参加で学んでいるほか、不適切なケアについても日常的に考え、スタッフ同士話し合っている。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桜ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり勉強会を行っている。実際に成年後見制度を活用している入居者が居る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約については施設長が十分な説明を行い、納得していただいている。改定等の際には都度説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、アンケートでご家族に意見を書いて頂いたりしている。家族会もっており、そこで出た意見等を聞かせて頂き、サービスの向上に努めている。	家族の来訪時に本人の様子を伝えながら意見や要望を聞き取っている。新たに「ご家族面会シート」を作成して個別に家族とのやり取りを記載している。今後は職員の気付きも記入し、更に家族の意見や要望の把握に活かしたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において話す機会がある。そこで出た意見をリーダー会議で話し合い、反映させている。	毎月のユニット会議で役職者からの報告やカンファレンス、業務内容について検討している。職員から議題の提案を受けて会議の中で話し合い、運営やケアに反映させることもある。管理者は、日常業務の中で職員と個別に話しをすることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得への支援やキャリアパス制度を導入しており、各スタッフは資格取得等スキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のスキルに合った外部研修への参加や、研修に出たスタッフからの伝達講習等を行い、スタッフ全員の質の向上を目指している。また、OJTの実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加や他施設と合同の勉強会等で交流がある。また、相互評価事業にも取り組んでおり、質の向上を図っている。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桜ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にご本人に会いに行ったり、ご家族から生活歴を聞き、ニーズを探っている。また、スタッフ間で情報共有を行い、ケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長が入居相談を行い、スタッフに情報を伝えてくれる。入居後、面会に来られた時等、何気ない会話の中からも想いを汲み取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報や入居してすぐの状態をアセスメントし、ご本人に何が必要かを話し合い、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	潜在力を見出し、ともに支え合う人として接している。人生の先輩という考えを持ち、様々なことを教えていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の様子を伝えるとともに、入居者様がご本人らしく暮らせるようご家族に相談したり、協力していただける所はお願いし、共に支え合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行ったり、知人の方が絵手紙を送って下さる等交流できている。	宗教関係の知人が訪ねて来る利用者もいる。以前の施設に麻雀に出かけたり、同法人の事業所で開催している茶話会に出かけて他事業所の方々と交流することもある。家族と一緒に墓参りや親戚宅に出かけたり、自宅に帰る方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置を工夫したり、スタッフが間に入る等、良い関係が築ける様、働きかけを行っている。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桜ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた後も法要の際にスタッフが手紙を添えてお花を贈ったり、ご家族が来訪してくださることもある。これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々アセスメントを行っている。想いを引き出す工夫をしたり、ご家族に相談する事もある。困難な場合も生活歴等から想像しスタッフで話し合っている。	職員は会話や表情、仕草や行動などから本人の思いや意向を把握し、4か月ごとに「24時間アセスメントシート」を作成している。センター方式(D-1)シートの利用方法についての検討を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞いたり、情報シートに記入していただき、ご本人も聞きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態を見極めつつ、それぞれに合った暮らしができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のアセスメントを基にご本人やご家族の意向も踏まえ、カンファレンスにて職員全員が意見を出し合い、プランを作成している。ご本人の状態に変化があれば、すぐに作り直しをしている。	毎月全職員で実施している「事前評価表」を基に、4か月ごとに利用者の現状について意見交換をして新たに介護計画を作成している。「生活(暮らし)アセスメントシート」に日々の変化を記載して、事前評価表や介護計画の作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートに記入し、必要があれば申し送りノートやラインで情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会資源等を活用しながら、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人でも買い物に出かけられる様、地域に声をかけ、安全に暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を第一にしている。また、必要に応じて受診したり、往診依頼をしている、	「受診記録」用紙に往診と受診を記録して個人ファイルに綴っている。精神科など状況説明が必要な場合は家族と共に職員も同行し、主治医と連携しながら適切な医療を支援している。	

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桜ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師であり、毎日報告をしている。必要があれば主治医に報告し、適切な医療を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の情報を提供し、その後もムンテラに出させて頂いたり、早期退院できるよう協働している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には看取りも含めて早い段階でご家族と話し合い、理解と納得を得られるようにしている。またかかりつけ医や訪問看護STとも連絡を密にして、体制を整えている。	利用開始時に重度化や看取りに関する指針に沿って、事業所としての対応や方針について説明している。本人の状況変化に応じて家族と方針を検討し、意向に沿って看取りも実施している。外部講師による看取りの勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。救命講習を受けたり、勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎月実施し、年2回は消防と町内会の方にも参加していただいている。	毎月火災や地震・津波などを想定した自主訓練を実施し、課題を次回の訓練に反映させて職員間で避難誘導方法の把握に努めている。防寒対策と場面ごとの避難方法を検討したいと考えている。	場面ごとの避難方法の検討と共に、利用者ごとの具体的な対応についても話し合い、マニュアルに綴るよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない様意識し、一人ひとりの性格も把握しながら心地良く暮らせるよう支援している。	呼びかけは家族に同意を得ながら、利用者の反応のよい呼び方をしている。職員の気になる対応があれば現場で指導している。利用者に聞こえないよう、申し送りを事務所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも「自律」という理念の下自己決定を促している。また、想いを引き出すような声かけをしたり、表情等からも想いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、それぞれの想いをくみ取りながら、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容や、服装、化粧、身だしなみに配慮している。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桜ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成、買い物、調理等個々の能力に合わせ、スタッフと一緒にやっている。皆で談笑しながら食事し、後片づけも一緒に行っている。	職員が献立を作成し、葉物野菜を多くするようにしている。利用者が下ごしらえや盛り付け、後片付けを手伝っている。誕生会には、ちらし寿司や好みのものを用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、一人ひとりに合った量や形態で提供している。食事量・水分量を必ず記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に応じて、スタッフが介助を行い、口腔内の汚れをチェックし、清潔が保たれるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。又、使用するパットの見直しも常に行っている。	個人記録に排泄状況を記録し、タイミングや様子を見ながら誘導している。誘導の際は羞恥心に配慮している。日中はトイレでの排泄を支援し、夜間のみパッド交換で対応する方もいる。できるだけ布パンツを使用するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天や、野菜を多くメニューに取り入れるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴する事ができ、ご本人の入りたいタイミングで入れるよう支援している。お湯の温度等もそれぞれの好みに合わせている。	毎日入浴可能で、午後を中心に各利用者が週2回は入浴できるように支援している。入浴剤を使ったり、入浴中は会話や歌を楽しんでいる。介助を必要とせず毎日一人で入浴している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感が見られる時は、自室やソファで臥床する事を勧めたり、ポジショニングを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明書を挟んであり、職員は薬について理解している。状態の観察は常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ等の外出やかるた、マーじゃん等、個々の嗜好に合わせて楽しんだり、それぞれの役割もある。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桜ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブに出かけている。また、ご家族と一緒に地方へ出掛けたりする方もいる。	周辺の住宅街を散歩したり、ウッドデッキでの外気浴を楽しんでいる。コンビニエンスストアなどに買い物に行く方や、冬に雪かきをする利用者もいる。行事では花見や運動会、喫茶店での外食、茶話会、運動会などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がお金を所持し、自ら支払いをして頂いている。その際はスムーズに支払いができるよう、声かけ等を行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の能力に応じ、必要な部分のみ代行し支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては、それぞれが心地良く過ごせるよう配慮し、季節感のある飾りをしたりしている。	全体に木を基調とした温かみのある作りで、玄関部分が2階まで吹き抜けになっている。居間は窓が大きく明るい。中央の休憩スペースには黒電話や鉄瓶など懐かしさを感じる小物を置いている。利用者の写真や季節の装飾、絵画、日めくりカレンダーなどが飾られている。濡れタオルを多く設置し、湿度を保つようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あまり人の目につかない場所スペースがあったり、大勢で過ごせる場所があり、自由に過ごせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの家具等を持ってきていただけるようお願いしており、ご家族の写真を飾る等している。	部屋には備え付けのキャビネットが設置されている。利用者がテレビやラジオ、タンス、椅子、仏壇などを自由に持ち込んでいる。カレンダーや家族の写真も飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにわかりやすく「トイレ」と書いたり、居室入口には表札をかけている。居室内でも安全に過ごせるよう、ご本人と一緒に模様替えをする等、能力に合わせて行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600137		
法人名	(有)ライトマインド		
事業所名	グループホーム花縁 桃ユニット(2F)		
所在地	苫小牧市澄川町4丁目3-5		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・開設当初より看取りを行っている。ドクターや訪問看護師とも連携を図っている。 ・また、施設長、副施設長も看護師の資格をもっており、すぐに相談ができる体制がある。 ・硬縮予防のアプローチを行い、個々の潜在能力を引き出すよう支援している。 ・副主任を中心に毎月避難訓練を行い、防火意識を高めている。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0173600867-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桃ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やユニット内に理念やケア理念を飾っている又、ケアプラン作成時に、ケア理念点検シートを使用し、常に、理念を意識する場面がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加させて頂いたり、ホームの行事にボランティアとして参加していただいたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長は認知症指導者であり、スタッフの中にも認知症キャラバンメイトがおり、地域の方へ認知症について理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の方や包括支援センターの方などにも来ていただいて意見交換など行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が電話連絡をしたり、市役所などに出向いたりして協力関係が築けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回、身体拘束について勉強会を行っている。又、身体拘束廃止委員会も行っており、審議したりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回、身体拘束について勉強会を行っている。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桃ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会では学ぶがスタッフ全員理解し活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が対応している。ご家族と話をした内容については情報共有している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回ご家族アンケートを行っており、意見が出た際は、スタッフで検討し、検討結果を運営推進会議などで発表している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に何かあれば話をしているので、行えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス精度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスタッフの能力に応じて外部の研修などへ行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や、相互評価事業などへ参加することで、同業者と交流できている。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桃ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネが、ご本人やご家族とお会いし、不安なことや困っていることなどを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長が、入居相談時に、聞いたり、入居後にスタッフとご家族が話をするなどして関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスの中で必用としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活しているということを念頭にして関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会時などに意見交換などをおこない、ご本人が過ごしやすいようにつとめている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年、キリスト教の信者の方がおり、礼拝へ行けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を活かし互いに支え合ったりする。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桃ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者さんが亡くなったがご家族が遊びにきていたことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族に意向などを聞きスタッフ間で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初にご家族に情報シートを記載して頂いたり、ご本人とお話し情報をえている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人ずつ、アセスメントを使用して記録し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員でEシートを考えており、色んな意見を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントに記載しスタッフ間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チームで話し合い可能な限り、ニーズに合わせた支援が行えるように勤めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が満足できるように支援しているが、地域資源は活用できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を行って下さるドクターがおり、月一回往診にきてくださる。又、希望により違う病院へ行けるように支援している。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桃ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長、副施設長は看護師である。又、訪問看護師とも連携を図り、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェンスシートを提出し、面会時などにも情報交換をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年齢やご本人の状態により、希望に応じて、看取りの契約を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	副施設長が救命指導員の研修を受けており、事業所内で定期的に救命講習をおこなっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	副主任を中心に月一回、避難訓練を行っている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格なども違う為、その方にあった声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人に選択していただけるように、声かけなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人ひとりのペースに合わせているが、できていないときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品などをしていただいていた入居者さんにはお化粧品をしていただくなど支援している。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桃ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切って頂いたり、盛りつけをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にアセスメントを行い、食事量や水分量を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行えるように支援しているが、毎食できないときもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントを個々に行い、排泄パターンを把握して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに野菜や寒天を取り入れたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴することができるご本人の入りたいタイミングで入れるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感が見られた際は自室やソファなどで臥床する事を勧めたりしている。ポジショニングも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明書を挟んであり、薬について理解している。状態の観察などは常にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや買い物などの外出、かるた等を行ったりしている。ビールを買って飲んでいる方もいる。		

グループホーム花縁

自己評価	外部評価	項目	自己評価(桃ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物へ行ったりしている。キリスト教の信者があり、ご家族の協力のもと礼拝へ行かれています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かお財布を所持し、使いたい時に使用し支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より電話したいと言われた際にはご家族や知人に電話をかけられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においてはそれぞれが心地よく過ごせるよう配慮している。季節感のある物を飾ったり、入居者さんの写真を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと一緒に過ごせる場所があったり、一人で過ごせるスペースもあり自由に過ごす事ができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の使い慣れた物や家具などをお持ちいただいている。また、ご家族の写真なども飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など分かるように工夫し、家具の置き場所も安全に配慮し工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム花縁

作成日：平成 31年 2月 25日

市町村受理日：平成 31年 3月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練は毎月行っているが、更に防寒対策と場面ごとの避難方法を検討したい。	どんな場面においても、入居者様を安全にスムーズに避難誘導できる。	入浴時、就寝中、食事中等様々な場면을想定し「今災害が起きたらどう動くか」ということを、スタッフ間で日常的に検討する機会を設ける。また全ての職員が共通認識を持てるよう、職員会議で意識付けを行う。	1年
2	4	運営推進会議の議事録は全家族に送っているが、案内は参加を依頼しているご家族のみになっている。	運営推進会議においてより多くのご家族から意見を出していただき、サービスの向上につなげる。	次年度より全家族に会議の案内を送付し、出席できない方も意見があればご一報くださるよう案内状に記載し、より多くの方から意見を出していただけるようにする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。